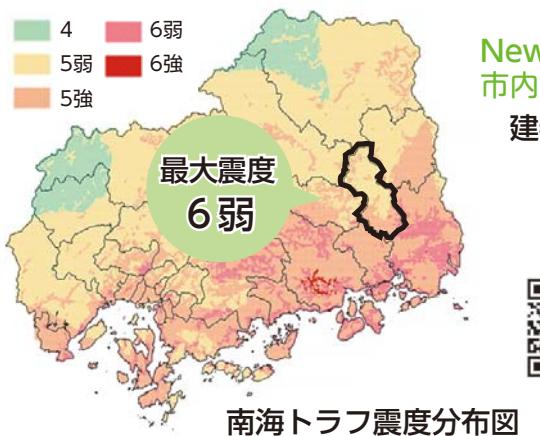


南海トラフ巨大地震の新たな被害想定

令和6年能登半島地震などの、近年発生した地震から得られた最新の知見やシミュレーションなどを踏まえて、南海トラフ巨大地震の広島県の被害想定が発表されました。

南海トラフ巨大地震は、今後30年以内に「60～90%程度以上」の確率で発生するとされています。府中市内でも最大で、立っていられないような震度6弱の揺れが想定されています。命を守るために、ひとりひとりが日頃から地震へ備えましょう。



問危機管理課(44-9119)

New 市内の被害想定

建物被害

- ▶ 全壞…246棟
 - ▶ 半壞…1,300棟



◀被害想定は
こちら

家庭ができる地震の備え



【家の中】

- 家具の固定
 - 高いところに物を置いていない
 - 非常時の持ち出し袋を作っている
 - ローリングストックを行い、水や食料などを備蓄している



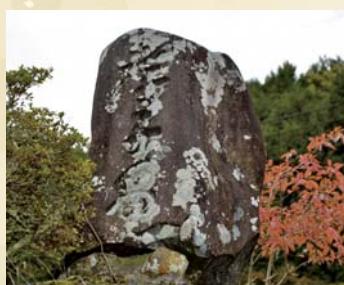
【避難】

- 家族全員の避難経路や集合場所、
安否確認方法を考えている
 - 経路に危険な場所はないか確認
 - ▶ 土砂崩れが起きそうな場所
 - ▶ ブロック塀やガラスの多い場所

チェックがついていないものは、すぐに対策しましょう。



ふちゅう 歴史散歩 Vol.177



孝子窟
(市史跡)



こうしばた
孝子晶

—上下町の孝行者—

問教育政策課(44-9024)

上下町小堀にある「孝子畠」と書かれた石碑を知っていますか。この石碑の裏面には、江戸時代中期、小堀村のならばら櫛原で生まれた市松の孝行ぶりが刻まれています。

市松は14歳で母を亡くした後、65歳の父・庄三郎を支えながら慎ましく暮らしました。父の世話をかいがいしく続けた市松の孝行ぶりは評判となり、ちょうど幕府直轄領内の孝行者を調査していた徳川幕府の老中・戸田氏教の耳にまで届きます。寛政5年(1793年)、市松は幕府から銀5枚を褒賞として授けられ、父・庄三郎には1日米5合が生涯にわたって支給されました。市松の思いやり深い心に、父も深く感謝し、二人は仲良く暮らし続けたそうです。その功績を称え、寛政7年(1795年)に「孝子畠」と刻まれた石碑が建立されたと伝えられています。

新しい年を迎えたこの時期、私たちも市松のように家族を思いやる心を大切にしながら、心豊かな一年を過ごしていきたいのですね。